

2013年3月期 通期 決算説明会資料



2013年5月29日
株式会社昭文社
証券コード:9475

資料の内容

1.	2013年3月期 通期 連結決算概要	・・・	3
2.	2014年3月期 通期業績の見通し	・・・	13
3.	参考資料	・・・	18
4.	今後の取り組み	・・・	20

【本資料の記載数値について】

表示単位未満は切り捨てております。

%表示は小数第1位未満を四捨五入しております。

【本資料の内容についてのお問い合わせ先】

株式会社昭文社 取締役 経営管理本部長 大野真哉

電話 03(3556)8171

1. 2013年3月期 通期 連結決算概要

連結決算概要

地図出版物の売上の大きな落ち込み、新刊出版物・スマートフォン向け新アプリ投入に伴う売上原価増加を要因として2013年3月期決算は減収減益

(百万円)

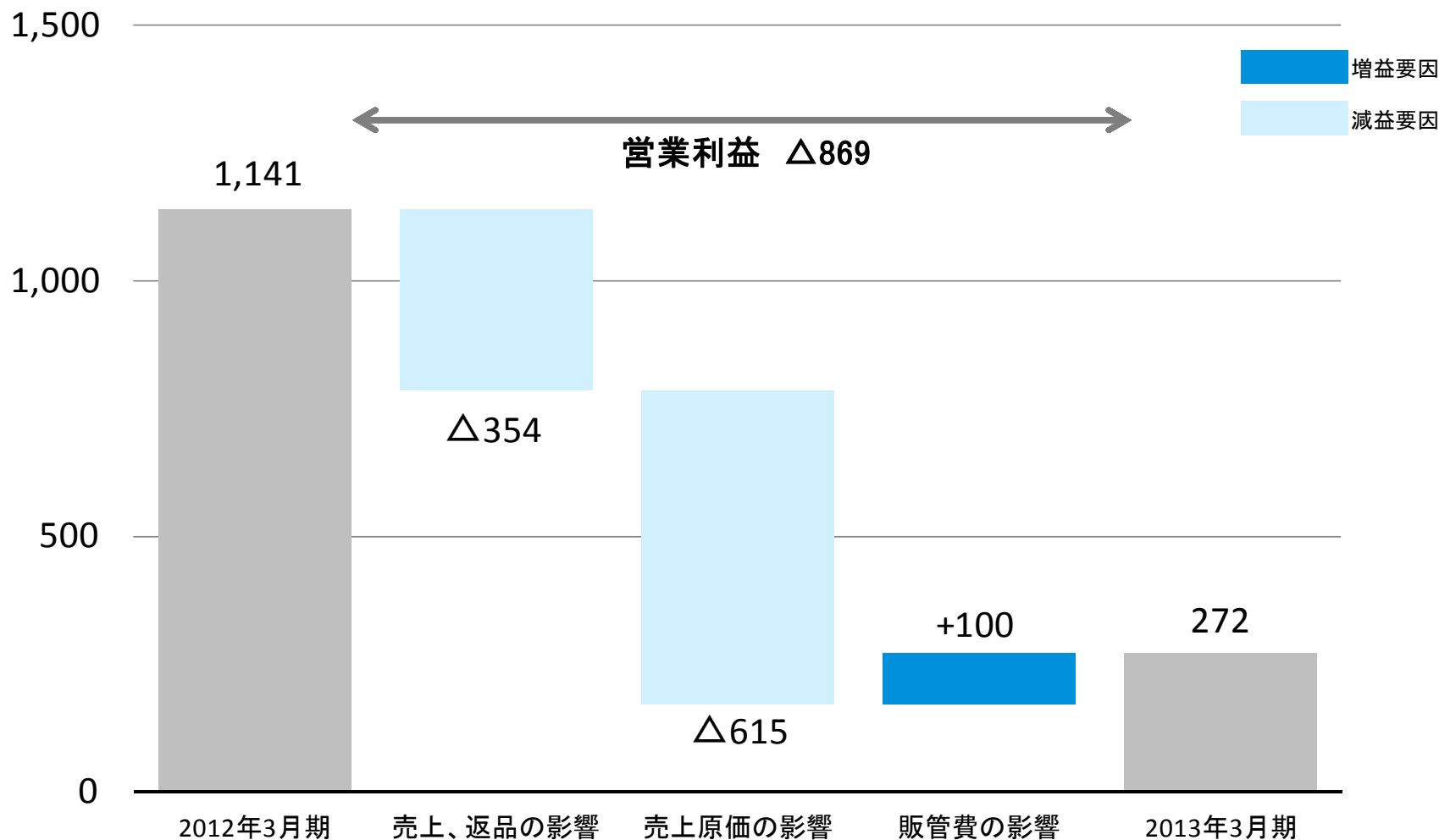
	2012年3月期	2013年3月期	増減額	増減率	2013年3月期 (予想)	増減額
売上高	15,586	14,638	△948	△6.1%	15,380	△741
営業利益 (売上高比、以下同)	1,141 (7.3%)	272 (1.9%)	△869	△76.2%	610 (4.0%)	△337
経常利益	1,104 (7.1%)	334 (2.3%)	△769	△69.7%	670 (4.4%)	△335
当期純利益	806 (5.2%)	357 (2.4%)	△448	△55.6%	400 (2.6%)	△42
1株当たり当期純利益(円)	48.52	21.52	△26.99	△55.6%	24.05	△2.53

※予想は2012年10月30日発表

営業利益の増減分析(2012年3月期比)

売上減少、売上原価増加の影響はあったものの、返品等および一般管理費の抑制で営業利益は黒字を確保

(百万円)



セグメント別業績(電子事業)

売上高

マップルナビ(PND向けアプリケーションソフト)の売上は当期も堅調に推移。しかし前期に計上したコンテンツ提供の大型案件が獲得できなかったこと、携帯電話のコンテンツプロバイダからのロイヤリティ収入の減少などの影響で減収

セグメント利益

データ精度向上のための開発コストの増加などが響き、前年比微減に

(百万円)

	2012年3月期	2013年3月期	増減額	増減率
売上高				
外部顧客への売上高	5,056	4,961	△95	△1.9%
内部売上高又は振替高	145	159	13	9.2%
合計	5,202	5,120	△81	△1.6%
セグメント利益	1,060	1,021	△38	△3.7%

セグメント別業績(出版事業)

売上高

ガイドブックおよび広告の売上は増加。一方で地図商品および特別注文品の売上は大きく減少。全体で減収に

セグメント利益

地図商品の売上減少の影響や新海外ガイドブック創刊に伴う原価率の上昇を受けて、利益面も大幅なマイナス

(百万円)

	2012年3月期	2013年3月期	増減額	増減率
売上高				
外部顧客への売上高	10,530	9,677	△853	△8.1%
内部売上高又は振替高	0	1	1	700.0%
合計	10,530	9,678	△852	△8.1%
セグメント利益	1,472	556	△916	△62.2%

分類別売上高

新刊を多数投入したガイドブックおよびタイアップ案件が好調に推移した広告の売上は増加。特別注文品の売上高減少は紙媒体の需要減が主な要因

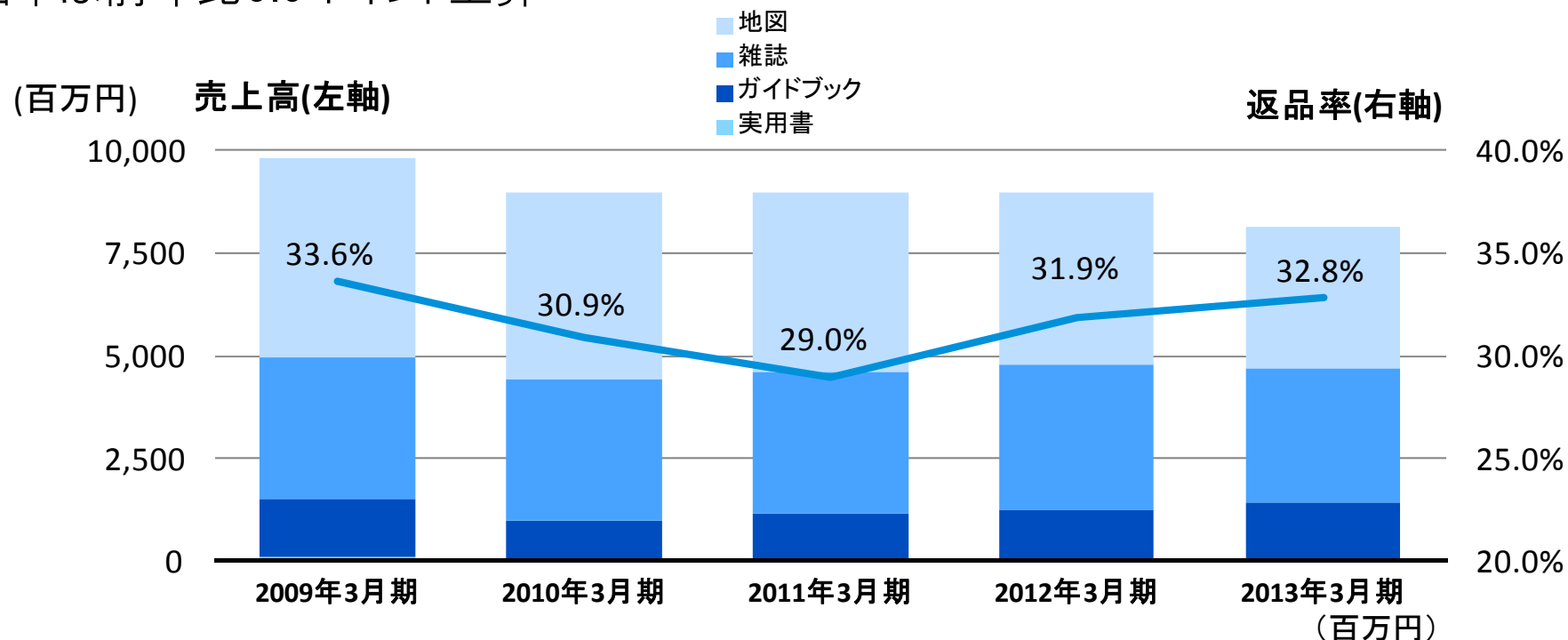
(百万円)

	2012年3月期		2013年3月期		増減額	増減率
	実績	構成比	実績	構成比		
電子売上	5,016	32.2%	4,920	33.6%	△95	△1.9%
手数料収入	39	0.3%	40	0.3%	0	1.0%
市販出版物合計	8,983	57.6%	8,158	55.7%	△825	△9.2%
地図	4,180	26.8%	3,470	23.7%	△709	△17.0%
雑誌	3,554	22.8%	3,238	22.1%	△316	△8.9%
ガイドブック	1,219	7.8%	1,432	9.8%	213	17.5%
実用書	29	0.2%	16	0.1%	△12	△42.5%
特別注文品	888	5.7%	772	5.3%	△116	△13.1%
広告収入	657	4.2%	745	5.1%	87	13.3%
合計	15,586	100.0%	14,638	100.0%	△948	△6.1%

※セグメント間の取引は相殺消去しています。

市販出版物売上高・返品率推移

返品率は前年比0.9ポイント上昇



	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
地図	4,832	4,572	4,375	4,180	3,470
雑誌	3,442	3,431	3,437	3,554	3,238
ガイドブック	1,405	976	1,125	1,219	1,432
実用書	128	14	43	29	16
市販出版物合計	9,808	8,994	8,983	8,983	8,158
返品率	33.6%	30.9%	29.0%	31.9%	32.8%

販管費・設備投資・償却費の推移

売上減少に対応する形で、一般管理費および設備投資の見直しを実施し、販管費は前年比△1億円の減少

(百万円)

	2012年3月期	2013年3月期	増減額	増減率
売上高	15,586	14,638	△948	△6.1%
販管費合計	4,360	4,259	△100	△2.3%
販売促進費	127	153	26	20.4%
広告宣伝費	212	266	54	25.5%
従業員給与・賞与	1,610	1,593	△16	△1.0%
賞与引当金繰入額	189	166	△22	△12.0%
減価償却費	168	155	△13	△8.1%
研究開発費	161	182	21	13.5%
その他	1,890	1,740	△149	△7.9%
設備投資額合計	678	608	△69	△10.3%
有形固定資産	136	116	△19	△14.4%
無形固定資産	541	491	△49	△9.2%
償却費合計	1,286	1,300	14	1.1%
有形固定資産	275	253	△21	△7.8%
無形固定資産	1,010	1,047	36	3.6%

連結貸借対照表

大きな変動はないものの、データベースは償却の進行、投資額の削減で前期比5億2千万円減少

(百万円)

	2012年3月期末		2013年3月期末		増減額	増減主要因
	実績	構成比	実績	構成比		
資産合計	33,981	100.0%	33,795	100.0%	△185	
流動資産	16,070	47.3%	16,269	48.1%	198	
(うち、たな卸資産)	2,346	6.9%	2,131	6.3%	△214	
固定資産	17,910	52.7%	17,526	51.9%	△384	有形固定資産は償却進行、無形固定資産は償却進行、データベース投資削減でそれぞれ減少
(うち、データベース)	5,006	14.7%	4,482	13.3%	△523	
負債合計	5,515	16.2%	5,143	15.2%	△371	
流動負債	4,488	81.4%	3,910	76.0%	△578	支払手形及び買掛金、短期借入金、未払費用の減少 △385
固定負債	1,026	18.6%	1,233	24.0%	207	退職給付制度における前払年金費用の計上による繰延税金負債の増加 +202
純資産合計	28,466	83.8%	28,652	84.8%	186	(自己資本比率 84.8%)
株主資本	28,266	99.3%	28,300	98.8%	33	当期純利益の計上による利益剰余金の増加
その他の包括利益累計額	199	0.7%	351	1.2%	152	その他有価証券評価差額金の増加
負債・純資産合計	33,981	100.0%	33,795	100.0%	△185	

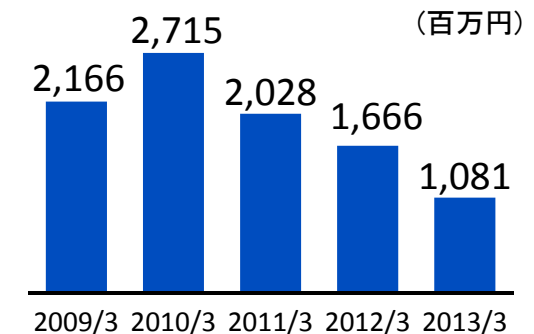
連結キャッシュ・フロー計算書

売上減少を主な要因として、現金及び現金同等物の期末残高は前年比で1億8千万円減少

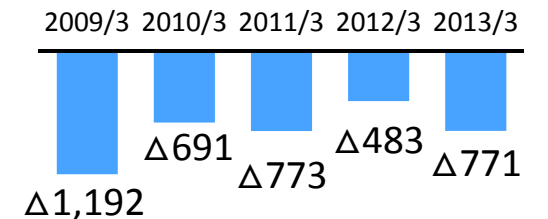
(百万円)

	2012年 3月期	2013年 3月期	増減額	増減主要因
営業活動による キャッシュ・フロー	1,666	1,081	△584	税金等調整前当期純利益の減少 △435
投資活動による キャッシュ・フロー	△483	△771	△288	投資有価証券の取得による支出の増加 △92 有形・無形固定資産の取得による支出の増加 △68
財務活動による キャッシュ・フロー	△395	△493	△97	短期借入金の返済の純増減額の減少 △78
現金及び 現金同等物の 増減額(△は減少)	787	△183	△970	
現金及び 現金同等物の 期末残高	8,662	8,479	△183	

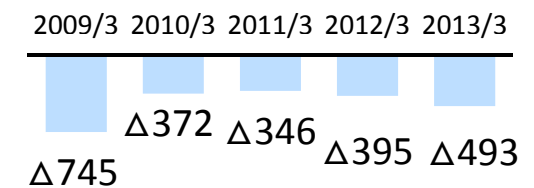
過去5年間推移
営業活動によるキャッシュ・フロー



投資活動によるキャッシュ・フロー



財務活動によるキャッシュ・フロー



2. 2014年3月期 通期業績の見通し

2014年3月期 通期の見通し

事業環境

スマートフォンなどのモバイルツールの急速な普及で、電子事業は事業領域拡大の機会が増加。事業全体の成長を目指して投資を行う予定

出版事業は引き続き厳しい環境になる見込み

電子事業

マップルナビはPNDに加え、車載カーナビゲーションとしても採用拡大の見通し。スマートフォン向けアプリケーションの開発投資と出版物連携型のアプリケーションの開発・提供で、新事業創出が目標

出版事業

厳しい環境下での利益確保に向けては、原価負担が軽減される前期出版の海外ガイドブックの販売増加と出版物全体の返品抑制施策の遂行が課題

2014年3月期 通期業績の見通し

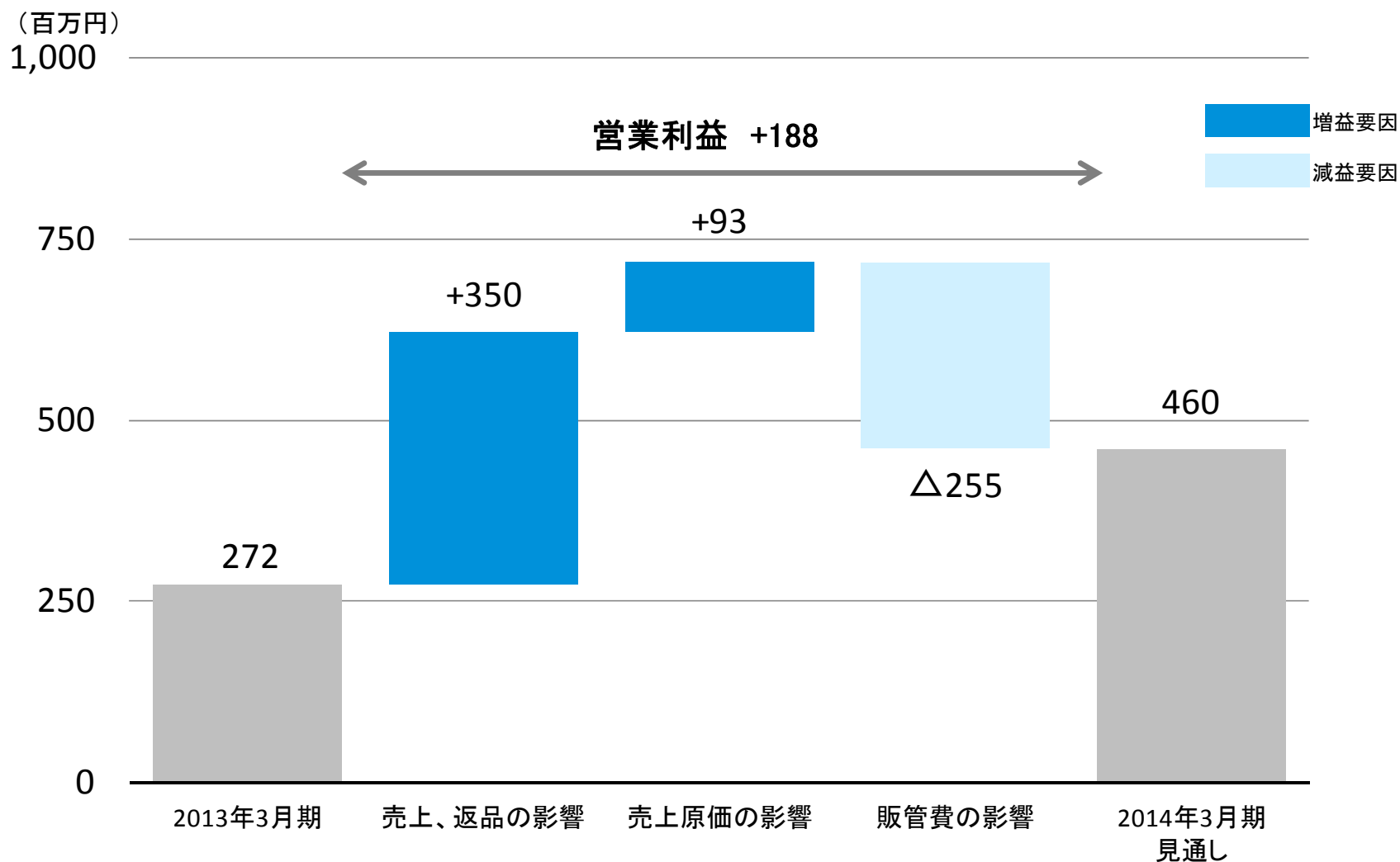
売上高は14,340百万円(前年比3億円減)の見通し

(百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 見通し	増減額	増減率
売上高	14,638	14,340	△298	△2.0%
営業利益 (売上高比、以下同)	272 (1.9%)	460 (3.2%)	188	69.0%
経常利益	334 (2.3%)	500 (3.5%)	166	49.4%
当期純利益	357 (2.4%)	310 (2.2%)	△47	△13.4%
1株当たり当期純利益(円)	21.52	18.64	△2.88	△13.4%
設備投資額合計	608	770	162	26.6%
有形固定資産	116	100	△16	△13.8%
無形固定資産	491	670	179	36.5%
償却費合計	1,300	1,310	10	0.8%
有形固定資産	253	229	△24	△9.5%
無形固定資産	1,047	1,081	34	3.3%
研究開発費	182	140	△42	△23.1%

営業利益の増減分析(2013年3月期比)

返品等抑制施策の継続およびコスト減などで営業利益は増益見通し



分類別売上高の見通し

市販出版物は厳しい状況が続き、減収の見込み。電子売上は増加見通し

(百万円)

	2013年3月期		2014年3月期 見通し		増減額	増減率
	実績	構成比	実績	構成比		
電子売上	4,920	33.6%	5,470	38.1%	550	11.2%
手数料収入	40	0.3%	40	0.3%	0	0.0%
市販出版物合計	8,158	55.7%	7,350	51.3%	△808	△9.9%
地図	3,470	23.7%	3,310	23.1%	△160	△4.6%
雑誌	3,238	22.1%	2,980	20.8%	△258	△8.0%
ガイドブック	1,432	9.8%	1,040	7.3%	△392	△27.4%
実用書	16	0.1%	20	0.1%	4	25.0%
特別注文品	772	5.3%	790	5.5%	18	2.3%
広告収入	745	5.1%	690	4.8%	△55	△7.4%
合計	14,638	100.0%	14,340	100.0%	△298	△2.0%

※セグメント間の取引は相殺消去しています。

3. 参考資料

【参考】2013年3月期 グループ主要トピックス

発表日	対象事業	トピックス内容	
2012年	4月18日	電子事業	登山用地図『山と高原地図』のiPhoneアプリ提供開始
	6月4日	出版事業	最新の東京駅エリアの情報を詰め込んだガイドブック『まっふるマガジン 東京駅 丸の内・八重洲』新発売
	6月11日	出版事業	大人のための新・海外ガイドブックシリーズ『トラベルデイズ』創刊
	6月26日	電子事業	iPhone向けカーナビゲーションアプリ『マップルナビS』提供開始
	6月29日	電子事業	海外旅行に便利な無料スマートフォンサービス『海外版マップルリンク』提供開始(新創刊の旅行ガイドブック『トラベルデイズ』のデジタル付録)
	11月28日	出版・電子事業	スマートフォン用 音声会話アプリ付き 海外旅行会話シリーズ『ことりっぷ会話帖』発売
	12月18日	電子事業	女子旅向け音声翻訳アプリ『ことりっぷ会話帖Pro』発売
2013年	2月12日	電子事業	『山と高原地図』のアプリ、Android版提供開始
	2月5日	IR	昭文社デジタルソリューション(当社連結子会社)における会社分割(吸収分割)に関する基本合意のお知らせ
	2月25日	出版事業	こどものための情報地図『地図で知る世界こども図鑑/日本こども図鑑』発売
	3月6日	電子事業	ゴルファー向けアプリ『GOLFな日』Android版提供開始

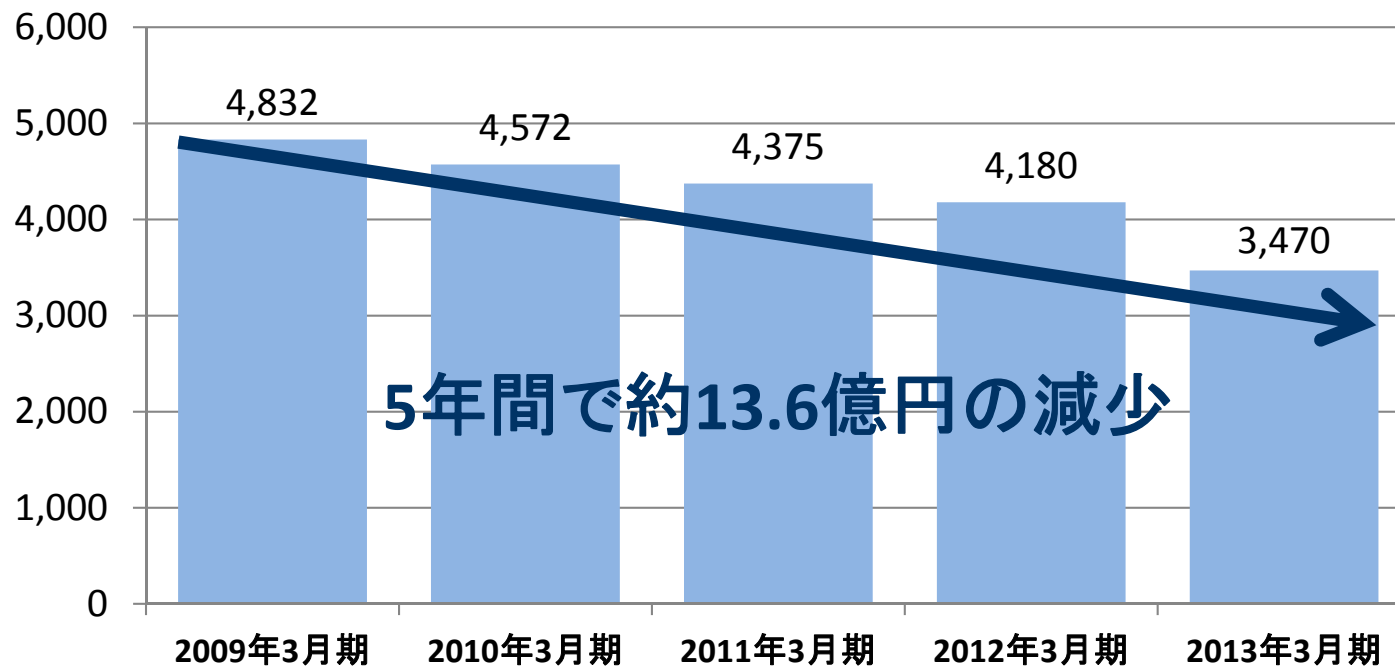
4. 今後の取り組み

昭文社グループの現状

当社グループにおける従来の主力事業である出版事業は、以前として厳しい事業環境が続いております。特に地図商品のニーズは、カーナビゲーション、スマートフォンなどの普及とともに大幅に減少。「昭文社といえば地図」であり、長年高い利益率で当社グループの業績に貢献した地図出版事業ではありますが、今後はこれに代わる新たなビジネスに軸足を転換する必要性が高まっております。

(百万円)

市販地図出版物 売上高推移



企業理念・経営方針の見直し

地図出版物は厳しい業績が続いておりますが、ガイドブックなど旅・おでかけジャンルの事業は好調です。なかでも「ことりっぷ」は累計800万部を超えるベストセラーとなっています。今後はこうした当社グループの強みを活かし、「地図から旅へ」ビジネスの軸足を移し、旅と好奇心で日本を元気にすること。旅を通じて紛争のない平和で豊かな世界を実現することを目指して、社会に貢献してまいります。

<企業理念>

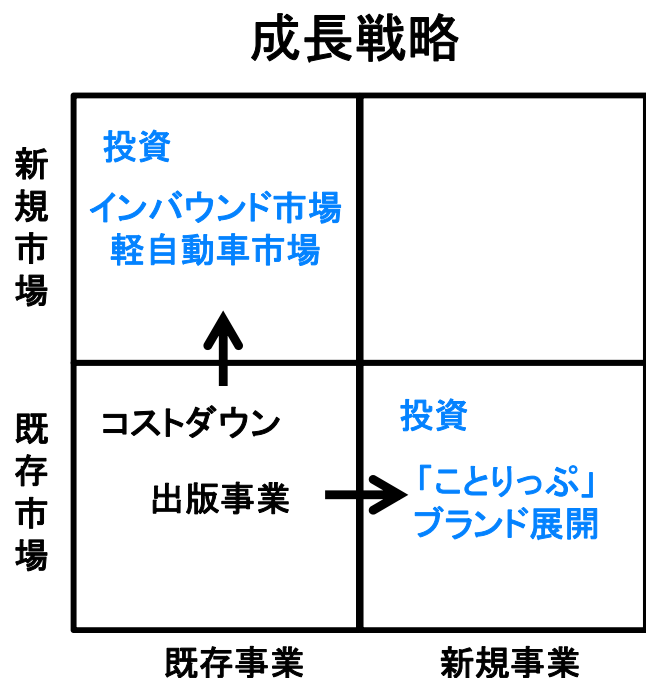
旅でもっとつながる世界へ。
好奇心でもっと感じる世界へ。

<経営方針>

1. 旅行活動のトータルサポーターを目指します。
2. 旅やおでかけに寄り添うブランド価値を育成します。
3. “ローカリゼーション”“グローバル化”を両立します。
4. 共鳴力と協働力を大切にします。

中長期的に注力すべき事業

「地図から旅へ」ビジネスの軸足をシフトするにあたり、当社グループにおける3つの強みを活かした次の事業に注力すべく、経営リソースの再配分を急ぎます。



1. 「ことりっぷ」 ブランド事業拡大と 新ブランドの投入



<自治体や企業とのタイアップ>

2. 成長する軽自動車市場への「マップルナビ」の浸透と拡大



<観光情報搭載のマップルナビ>

3. 成長するインバウンド市場に向けた観光支援ビジネスモデルの確立



<台湾版ことりっぷ>

注意事項

本資料に記載されている当社の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは発表日現在において入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、多様な要因によって、これらの業績見通しと大きく異なる結果になりうることをご承知おき願います。

これらの業績見通しに全面的に依拠して、投資判断を行うことは控えられませうお願いいたします。